

1. 総括についての評価

令和7年度も、児童は互いに学び合い支え合いながら学校生活を送り、学ぶ楽しさや成長の喜びを実感する姿が多く見られた。日々の授業や学校行事、体験活動を通して主体的に取り組む態度が育まれるとともに、友だちとの関わりの中で自己の良さに気づく児童も増えてきている。教職員も研究授業や校内研修を計画的に実施し、授業改善や指導力向上に努めることで、児童の理解を深める教育活動を展開することができた。

安全・安心な教育環境の充実に向けた取組では、「いじめはどんな理由があってもいけない」と最も肯定的に回答した児童の割合が96.1%となり、前年度を上回る結果となった。また、不登校児童の在籍比率はわずかながら減少し、改善の割合も増加するなど、継続的な支援の成果が見られた。学校生活に関する調査においても、きまりを守って生活する姿勢が維持されており、落ち着いた学校生活が定着している。

学力面では、小学校学力経年調査において国語や算数で前年度を上回る学年が多く見られ、継続的な取組の成果が確認できた。また、「授業の内容は理解できる」と回答した児童の割合も94%となり、授業改善の取組が児童の理解につながっていると考えられる。体力面においても、運動を好む児童の割合が向上し、日常的な運動の取組が成果として表れている。

一方で、学力の定着状況の個人差や不登校児童への支援など引き続き取り組むべき課題も見られるが、総じて本年度の教育活動はおおむね良好に実施できたものと自己評価する。

2. 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

全市共通目標（小・中学校）

① 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を91%以上にする。 R6 91.3% R7 96.1%

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R6 0.98 R7 0.97

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

R6 20% R7 30%

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

学校の年度目標

④ 令和7年度の校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上を維持する。 R6 97% R7 97%

（基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現）

⑤ 令和7年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和6年度より2%増加させる。

R6 51% R7 56%

(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

- ① R6 : 90.9% ○
- ② 改善の割合は、R7 0.97 ○
- ③ 改善の割合は、R7 30% ○
- ⑥ R6 : 97% △
- ⑦ R7 : 56% ○

年度目標 : 未来を切り拓く学力・体力の向上

全市共通目標 (小・中学校)

① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。 R6 42.1% R7 46.1%

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

R6 国語3年100.3 4年100.2 5年99.8 6年98.7 R7 国語3年102.6 4年100.5 5年100.6 6年99.2

R6 算数3年98.6 4年99.8 5年98.2 6年97.8 R7 算数3年103.2 4年101.9 5年108.4 6年96.7

③ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 R6 80.3% R7 79.4%

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

④ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 R6 88% R7 87.7%

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

⑤ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を63%以上にする。 R6 68.5% R7 69.9%

(施策5 健やかな体の育成)

学校の年度目標

⑥ 令和7年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 R6 93% R7 94%

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

- ① R7 46.1% 前年度より向上し、目標値を達成した。○
- ② 前年度より6年算数以外は、向上した。○
- ③ R7 87.7% ▲
- ④ R7 87.7% ▲
- ⑤ R7 69.9% ○

⑥R7 94% ○

年度目標：学びを支える教育環境の充実

全市共通目標（小・中学校）

① 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「毎日」と答える児童の割合を94%以上にする。

R6 96% R7 100%

（基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進）

② ゆとりの日を週1回設定する。学校閉庁日は、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。

R6 夏季4日 冬季3日 R7 夏季4日 冬季4日

学校の年度目標

② 令和7年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。 R6 83% R7 77% （基本的な方向8 生涯学習の支援）

④ 令和7年度の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目において肯定的に答える児童の割合を91%以上にする。 R6 97% R7 94%

（基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）

⑤ 令和7年度の校内調査において「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和5年度より1ポイント増加させる。

R6 94% R7 92%

（基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進）

①R7 100% ○

②R7 夏季4日 冬季4日 ○

③R7 77% ▲

④R7 94% ○

⑤R7 92% ○

4. 今後の学校園の運営についての意見

児童一人ひとりの理解状況に応じた指導の充実を図る。特に基礎的・基本的な内容の定着に課題の見られる児童への支援を強化し、学力向上 week や補足的な学習機会を通して「学び切る力」の育成に努める。また、主体的に考え対話を通して学びを深める授業づくりを進め、確かな学力の定着をめざす。

体力面については、運動を好む児童の割合が向上しており、運動強調週間などの取り組みが成果として表れている。今後も日常的に体を動かす機会を充実させるとともに、学校・家庭・地域が連携しながら児童の運動への意欲を高め、健やかな体の育成を図っていく。

安全・安心な教育環境の充実に向けては、いじめの未然防止や不登校児童への支援を継続し、関係諸機関とも連携しながらきめ細かな対応を行う。また、ICT 機器の活用や家庭との連携を通して児童理解を深め、一人ひとりに応じた支援の充実を図る。

目標数値の設定や評価にあたっては、最も肯定的な回答だけでなく肯定的な回答全体を踏まえて児童の実態を把握し、継続的な改善につなげていく。児童が安心して学び、自分の成長を実感できる学校づくりを今後も進めていく。